内海ITU事務総局長

ジュネーブ便り

（2003年2月）

◎内海総局長から

しばらく、温室効果の暖かい冬が2、3年続いていましたが、今年は、陰鬱で寒いジュネーブでした。周辺のスキー場も雪が多く、私も、25年ぶりでスキーをしてみました。なんと、昔、滑ったように滑れるではないですか！

体で覚えたことは、何年たっても忘れないようですが、忘れなければならないのに忘れられない慣習や仕事のやり方と戦うのも、骨の折れることです。

そして、これだけの多数の国と、これだけの多くの人々がイラクに対する武力行使を否定していても、やはり戦争が起きるのでしょうか。国際政治は、決して理性でもなければ、多数決の民主主義でもないことを、まざまざと見せ付けている今日このごろです。

◎2月の事務総局長の主な動向

2月5～6日　ITUテレコムワールド2003、フォーラムプログラム委員会第2回会合（ジュネーブ、スイス）

今年10月12～18日に開催するITUテレコムワールド2003では、展示会とともにフォーラムを開催します。フォーラムでは、電気通信と情報技術が直面している課題や可能性に関して、ビジネス分野、政策分野、開発分野と大きく分けて各セッションを構成し、ハイレベルによる討議を行います。前回のITUテレコムワールド99のフォーラムでは、野田元郵政大臣やビル・ゲイツらがそれぞれの情報社会のビジョンを語り注目を集めました。

委員会会合では、引き続きフォーラムの構成およびスピーカーの選定作業を行っていきます。

2月11日　WSIS政府間ビューロー会合（ジュネーブ）

これまでに開催された5つのWSIS各地域準備会合の結果報告、2003年第1フェーズと2005年第2フェーズの連携、17日から始まるWSIS第2回準備会合（Prepcom2）でのNGOらの参加や議論の進め方などについて議論しました。

特に、Prepcom2での宣言（案）と行動計画（案）の議論に関して、各地域準備会合の結果文書と準備会合議長がまとめたノンペーパーとのどちらを議論の土台とするかで意見が対立しました。議長ノンペーパーは各地域会合の結果を考慮して簡潔に、かつ具体的にまとめられていることから議論の土台として適切だという国もありましたが、議長ノンペーパーは各国政府が関与していないことから不適切であり各国政府の意向が反映されている地域会合結果文書のほうがたとえ長くなってしまっても議論の土台として適切だという国も多くありました。結局はPrepcom2での議論に委ねることになりました。

WSISの出力のイメージが少しずつですが見えてきたこともあり、各国からの意見も活発に出されるようになってきました。

2月12日　ITUテレコムアフリカ2004招聘国合意文書署名（ジュネーブ、スイス）

在寿府エジプト政府代表部大使との間でITUテレコムアフリカ2004を来年5月3～7日にカイロで開催することに関する合意文書の署名を行いました。

ITUテレコムアフリカは、1986年から開催されていて今回で第6回となります。アルジェリアとセネガルも今回の招聘に名乗りを上げていましたが会議場設備や交通機関などを考慮してエジプトでの開催を決めました。

アフリカのほとんどの国ではいまだに電気通信の開発が必要であり、今回のITUテレコムアフリカが発展の後押しをすることを期待しています。

2月13日　アラブリーグとの協力合意文書署名（ジュネーブ）

Mr.Mousaアラブリーグ事務局長との間で、アラブリーグ諸国における電気通信開発プロジェクトをITUとアラブリーグが共同して進めていくことを主な目的とした合意文書の署名を行いました。

2月14日　ITUマネジメント見直し専門家会合（ジュネーブ）

マラケシュ全権決議COM6/1に基づいて設置されたITUの財政管理および運営の効率化について検討する専門家会合のメンバーと意見交換を行いました。

専門家会合ではITU各セクターへの分散化が議論されていますが、現在においても各セクターで運用計画を独自で策定でき、また各セクターごとに渉外、出版およびマーケット担当などが配置されるなどセクター間での作業が重複するほどに分散されています。また、組織運営の効率化の観点からすると、JIU（国連合同査察団）のレポートにあるとおり連邦制を廃止して事務総長をトップにした1つの組織にするか、3つのセクターをそれぞれ完全な独立機関にするかという極端な選択肢を検討すべきなのかもしれません。

専門家会合から具体的でかつ有益な提言が、今年の理事会に提案されることを期待しています。

2月17～28日　第2回WSIS準備会合Prepcom2（ジュネーブ）

今年12月のサミット（WSIS）に向けたWSIS準備会合Prepcom2を開催し、サミットで採択される宣言案および行動計画案の検討を行いました。

Prepcom2初日は、セネガルとルーマニアの大統領が出席して、それぞれがデジタル・デバイド対策の重要性やICTを活用した発展への期待を述べ、コードやコモンズの著作で知られるレッシング教授からは情報への自由なアクセスを保証するために知的所有権などを解決する枠組みを整備すべきであることなどが述べられ、2週間の議論が始まりました。

会議出席者の約半数は、NGOや市民団体からの参加者であり、彼らの貢献が注目されるとともに、政府とNGOや市民団体との対話なども建設的に行われました。

Prepcom2までに、5つの地域準備会合が開催され、宣言案および行動計画案に含めるべき項目はほとんど明確になっていたことから、どのように出力文書を一本化するかが議論の焦点となりました。また、行動計画案には具体的なベンチマークを含めるべき、デジタル・デバイド解消のためのファンドが必要であるなどの意見もあり、議事の収拾が難しくなりましたが、在寿府日本政府代表部の野川大使が委員会議長を務め、Prepcom2終了後も議論を続けていくための基本文書がまとめられました。

9月に開催するPrepcom3では最終的な宣言案および行動計画案をまとめられるよう、今回作られた基本文書を基に議論は続けられます。

http://www.itu.int/wsis/documents/doc_multi.asp?lang=en&id=392|400

2月20日　ITUテレコム事務局組織再編（ジュネーブ）

ITUテレコムでは、ワールドテレコムおよび地域テレコムにおいて展示会とともにフォーラムを開催してきました。また、ITU事務総局戦略政策部では、ニューイニシアティブプログラムとして電気通信の先端的な重要事項について専門家を集めた戦略計画ワークショップを開催してきました。今後、相乗作用を考慮して、それらのフォーラムおよびワークショップをITUテレコムフォーラムと1つのブランドとして扱うこととしました。

これにより、ITU事務総局戦略政策部の研究員が今年10月のITUテレコムワールド時のフォーラムの構成にも参加することとなり、より充実したITUテレコムフォーラムが開催できることを期待しています。

2月28日　ITU職員によるデモンストレーション（ジュネーブ）

昨今の経済事情を反映してITUメンバーからの分担金は減少傾向にあり、ITUの財政状況は厳しくなってきています。このような財政状況のなかで、特にITUで短期雇用されている職員の契約更新が難しくなり、また、新たな外部からの雇用が基本的にできない状態になっています。ITUの各職員は、厳しい財政状況のために人員整理があることはやむを得ないと理解しているのですが、どのような計画で人員整理および予算作成が進められるのかが不明であることに不安を感じ、今回のデモンストレーションとなりました。

今年の理事会で採択する2004～2005年の予算案は、事務総局および各セクター間で調整しながら準備しています。収入に合わせた支出にするためには、プライオリティーの低い作業やそれに伴う人員を厳しく削除していくほかなく、頻繁に幹部らと会合を持ち、予算案を完成させつつある状態です。